

富良野市における調査結果の概要

国語

算数
数学

質問紙

平成28年10月 富良野市学力向上推進プロジェクト

平成28年度 全国学力・学習状況調査の富良野市における調査結果について公表します。

本市では、「学びの大地」に根ざした富良野に育つ3本の木（「知育の木」「情意の木」「健康の木」）のより高い調和を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。

学力調査結果は、子どもたちの現時点での一面であり、今後の取り組みの資料とするものです。この結果を受け今後の本市の教育施策や学校の取り組みに活かしながら、本市教育を一層充実させて参ります。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査の結果をお知らせすることにより、富良野市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況と意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）を合わせて公表することで連携体制をより強くしてまいります。

なお、この学力調査の結果は、子どもたちが身につけるべき学力の一部分であり、これによって子どもたちの全てを評価できるものではありませんので、序列化や競争につながるものがないようご理解をお願いいたします。

調査の概要

◆調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

◆調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

◆調査の内容

- 教科に関する調査(国語、算数・数学)
 - ・主として「知識」に関する問題（国語A、算数A・数学A）
 - ・主として「活用」に関する問題（国語B、算数B・数学B）
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

教科に関する調査結果の概要について

◆教科に関する調査(国語、算数・数学)

【小学校】

小学6年は、国語A（「知識」に関する問題）・国語B（「活用」に関する問題）で全国平均正答率を上回りました。算数A（「知識」に関する問題）は、全国平均正答率と同等※・算数B（「活用」に関する問題）は、全国平均正答率と同値でした。

【中学校】

中学3年は、国語A（「知識」に関する問題）で全国平均正答率を上回り、国語B（「活用」に関する問題）で全国平均正答率と同等※でした。数学A（「知識」に関する問題）・数学B（「活用」に関する問題）共に全国平均正答率を上回りました。

※ 全国平均正答率との差が3ポイント以内の平均正答率を「同等」としています。

本市では、学校教育中期計画の基本理念「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」の基、教育の原点である知育・徳育・体育の調和のとれた子どもたちの着実な育成を基本に据え、「全ては子どもたちのために」を合い言葉に、子どもたちの無限の可能性を伸ばす教育の充実に努めてきました。

また、子どもたちが未来を拓き変化の激しい時代をたくましく生き抜く「生きる力」を地域全体で育むために、学びの大地に大きく育つ三本の木としての『富良野市ZERO運動』を推進してきました。その成果は、様々な分野で児童生徒の成長の姿として発現され、それにふさわしい成果や高い評価を各方面から受けてきたところです。

そうした取り組みのひとつの現れとして、全国学力・学習状況調査において、小学校・中学校ともに全国平均正答率と同等か全国平均正答率を上回る結果となりました。

今後も、これまでの取り組みの成果を活かしつつ、児童生徒の確かな学びの定着に向けて着実な取り組みを継続するとともに、学校・家庭・地域が連携し学力向上に努めていきます。

各教科の領域別の状況

小学校国語

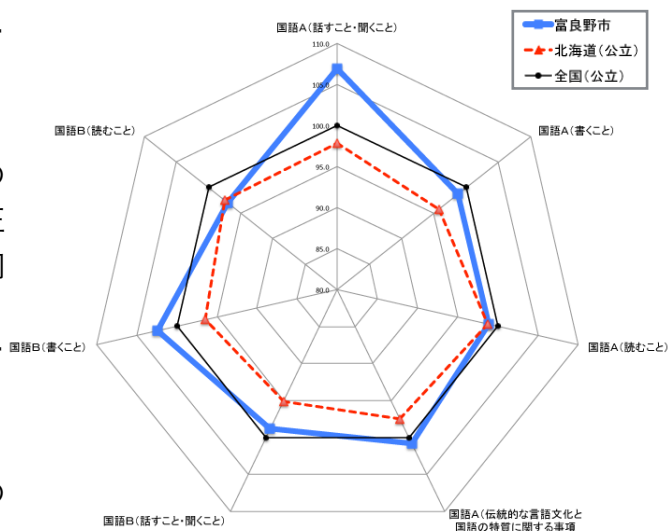
全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの
(数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出)

○富良野市の小学校国語A（「知識」に関する問題）

- ・国語Aの領域別の問題では、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国平均正答率を上回り、他の2領域で正答率が同等となっています。

○富良野市の小学校国語B（「活用」に関する問題）

- ・国語Bの領域別の問題では、「書くこと」の領域で全国平均正答率を上回り、他の2領域で正答率が同等となっています。



【課題】

国語では、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題が見られることから、課題解決の過程に適切に位置付けられた言語活動を行うことが大切となる。

小学校算数

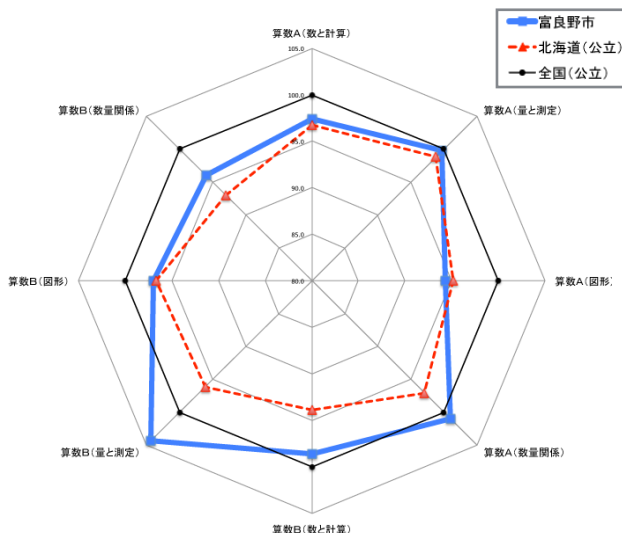
全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの
(数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出)

○富良野市の小学校算数A（「知識」に関する問題）

・算数Aの領域別の問題では、「数量関係」の領域で全国平均正答率を上回り、「数と計算」「量と測定」の領域で正答率が同等となっています。

○富良野市の小学校算数B（「活用」に関する問題）

・算数Bの領域別の問題では、「量と測定」の領域で全国平均正答率を上回り、「数と計算」「図形」の領域で正答率が同等となっています。



【課題】

算数では、問題場面と式を関連付けて、式の意味を解釈したり、解釈したことを記述したりすることに課題が見られることから、問題を解決するために必要な情報は何かを適切に判断し、資料などからその情報を取り出すことができるように指導することが大切となる。

中学校国語

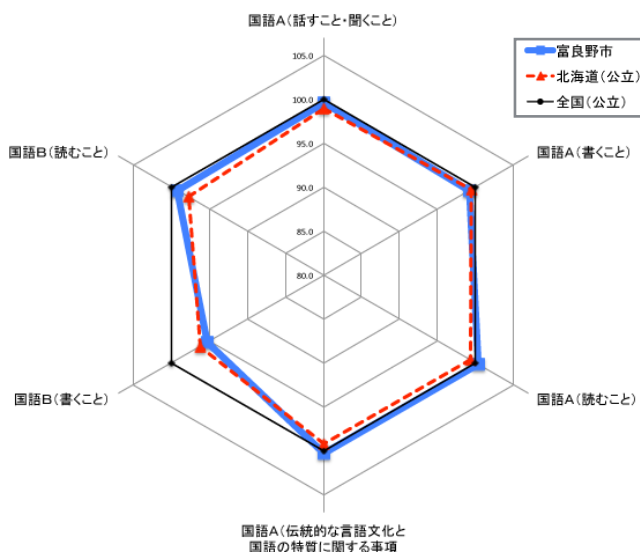
全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの
(数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出)

○富良野市の中学校国語A（「知識」に関する問題）

・国語Aの領域別の問題では、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国平均正答率を上回り、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で正答率が同等となっています。

○富良野市の中学校国語B（「活用」に関する問題）

・国語Bの領域別の問題では、「読むこと」の領域で全国平均正答率と同等となっています。



【課題】

国語では、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに課題が見られることから、複数の実例や専門的な立場からの知見などを示すように指導することが大切となる。

中学校数学

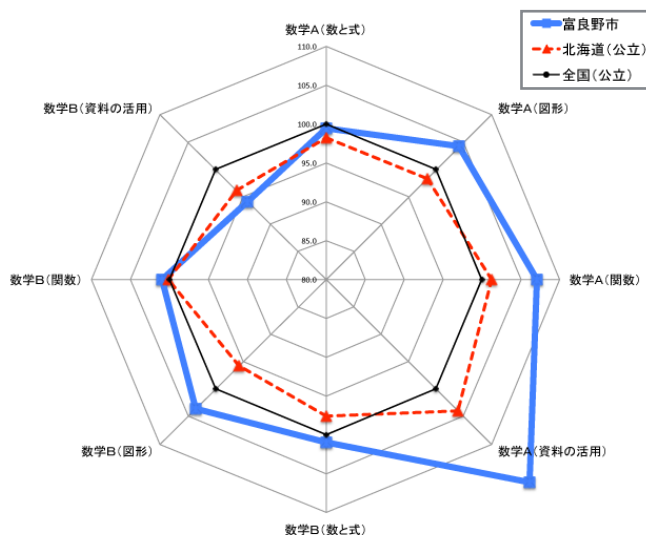
全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したものの
(数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出)

○富良野市の中学校数学A（「知識」に関する問題）

・数学Aの領域別の問題では、「図形」「関数」「資料の活用」の領域で全国平均正答率を上回り、「数と式」の領域で正答率が同等となっています。

○富良野市の中学校数学B（「活用」に関する問題）

・数学Bの領域別の問題では、「数と式」「図形」「関数」の領域で全国平均正答率を上回っています。



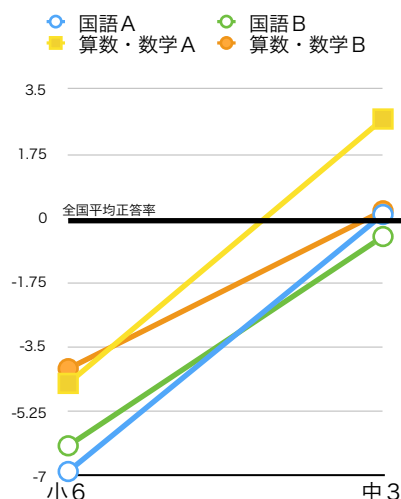
【課題】

数学では、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られることから、目的に応じてデータを収集し整理した表などから、代表値を求める活動を重視することが大切となる。

◆小学校6年時(平成25年度)の調査との比較

現中学3年生が3年前の小学6年生で受けた調査(国語A・B、算数A・B)の平均正答率と全国平均正答率との差を比較してみました。小学6年生時点では、国語A・国語B・算数A・算数Bの全てで、全国平均正答率を下回っていましたが、今回の調査では、国語A・数学A・数学Bで全国平均正答率を上回り、国語Bで正答率が同等でした。

背景には、生徒の頑張りはもちろんのこと、中学校での教科担任制による専門的な知見に基づく充実した授業展開によるところが大きいと考えられます。さらに、小・中学校を通じて理解の程度に応じたきめ細かな指導や「見直しや振り返り」を位置づけた日常の授業の改善・年間指導計画に基づく「チャレンジテスト」の効果的な活用・学期末、年度末に「まとめの時間」を設定した教育課程の改善・長期休業中の「学習サポート」・家庭との連携による学習習慣や生活習慣の改善等の着実な取り組みが本市各小中学校に浸透してきている事が挙げられます。



◆調査結果より

◇本市においては、道教委が掲げた「平均正答率を全国平均以上にする」との目標を小学校6年では国語A・国語B・算数Bで、中学校3年では国語A・数学A・数学Bで達成するなど、確かな成果を上げています。

このことは、授業公開を積極的に進める「地域に開かれた学校づくり」や授業研究を通じた授業改善、「ブックトラック事業」「ブックフェスティバル事業」「学校支援ボランティアの読み聞かせ」等の読書活動の推進、小・中連携の取り組み、「富良野版キャリア教育」の推進、小規模校での教育の充実、教職員の加配、特別支援教育支援員の配置、長期休業中の「学習サポート」による学習内容の着実な定着、「放課後英語ランド」「スクールバス乗車時を活用した英語活動」「イングリッシュキャンプ」等による英語教育の推進、演劇手法を取り入れたワークショップによるコミュニケーション能力の向上、デジタル教科書・電子黒板・タブレット端末等のICT化の推進による成果が着実に現れてきたものと考えられます。

※今後の授業改善の取り組み

- 学校全体で学力向上に向けた取り組みを組織的に推進していくため「学力向上推進委員会」を組織し、子どもたちの状況をきめ細かく把握し、指導の改善充実を図っていきます。
- 授業ごとに「つけたい力」を明確にし、到達させるための手立てを講じていきます。
- 「根拠」に基づいて「理由」をつけて考えを書いたり話したりする場面を積極的に取り入れた授業を工夫していきます。
- 授業中に子どもの理解の状況を丁寧に見取り、定着の状況を把握し、実態に即した意図的な働きかけをしていきます。
- 児童生徒が「分かった、できた」を実感できるように授業に「まとめ」と「振り返り」を位置づけていきます。
- 学校での学習の効果を高めるため、児童生徒の家庭学習の状況を的確に把握し、児童生徒や保護者に対して適切に助言したり、学習内容の確実な定着や家庭での学習の機会を確保するための『宿題』や『課題』を設定します。

この調査結果を踏まえ、学力向上に向けた取り組みを、『第2次富良野市学校教育中期計画(平成25年度～平成29年度)』及び『富良野市ZERO運動』を基軸とし、充実した教育活動が展開できるよう推進していきます。

『第2次富良野市学校教育中期計画(平成25年度～平成29年度)』

学校教育中期計画(平成20年度～平成24年度)は、「自立と共生の未来を拓く、心豊かでたくましい人を育む」ことを基本理念に掲げ、策定された計画です。この間の成果と課題を土台とし、子どもたちが変化の激しい時代をたくましく生き抜き、自らの未来や社会を拓く「生きる力」をオール富良野で育てていくため、第2次学校教育中期計画(平成25年度～平成29年度)を策定しました。

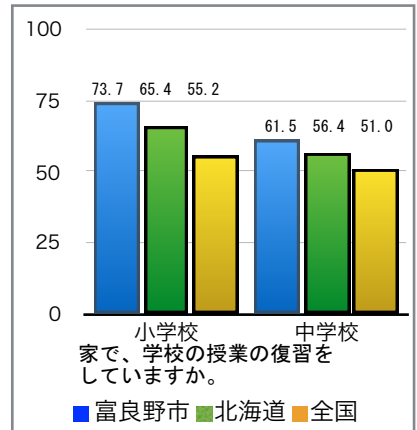
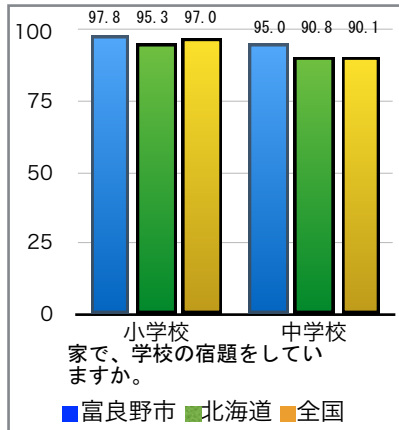
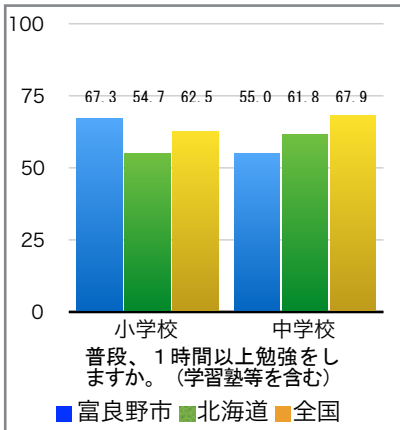
『富良野市ZERO運動』

ZERO「0」は、教育の原点であり、和(輪)を表わす「学び」を支える象徴として捉えることができます。「ZERO運動」は、各学校や教職員等が、教育の原点を見つめ直し、主体性や向上性を基軸として教育実践の輪を広げていくことを意味しています。

質問紙調査に関する結果の概要について

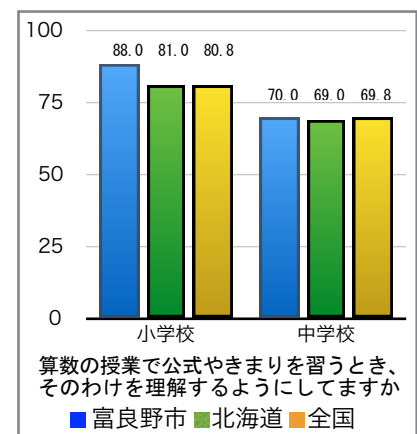
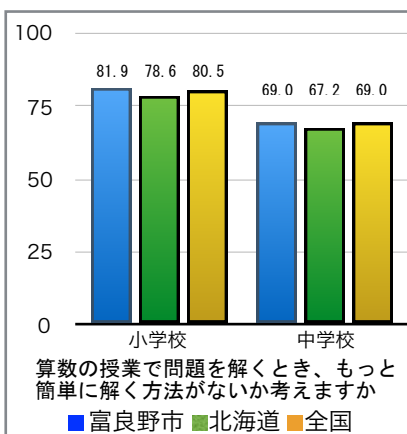
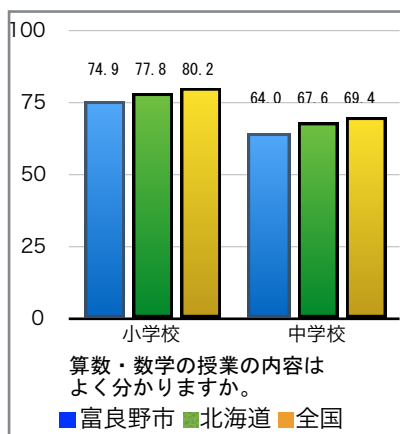
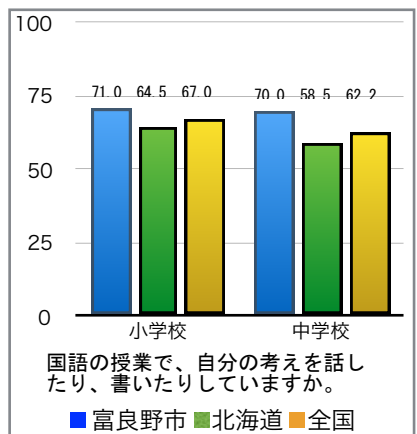
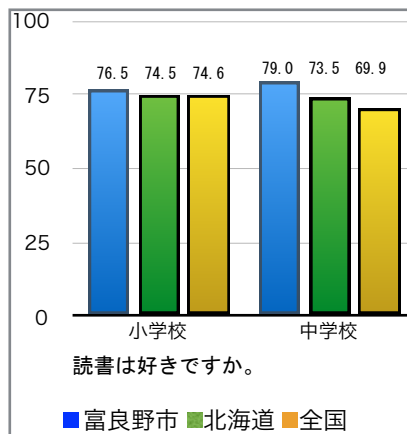
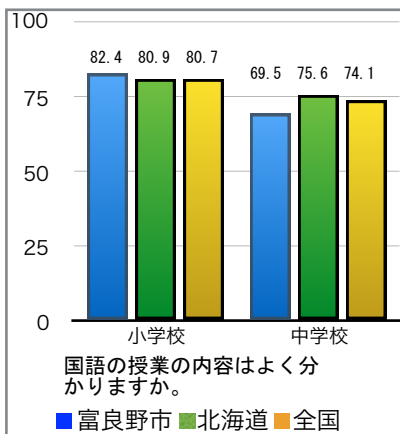
○学習習慣について

※グラフの数値は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合です。



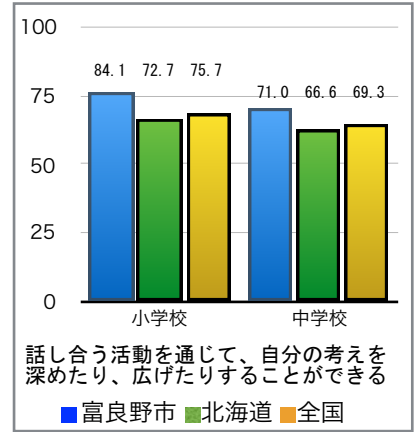
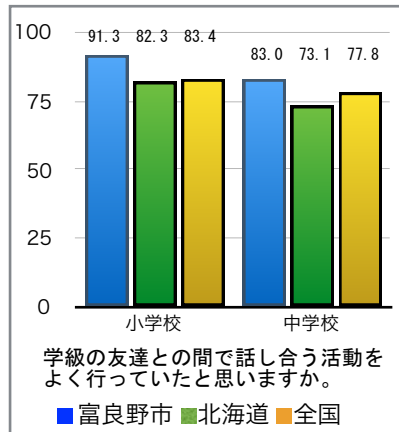
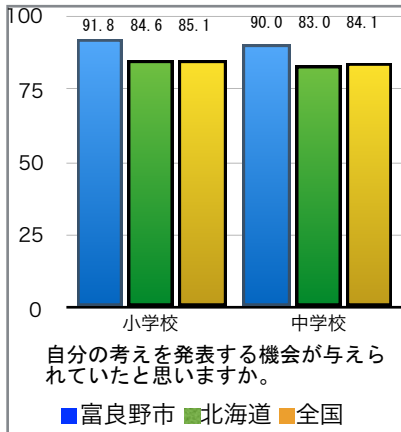
各校が家庭学習の取り組みを推進してきたことで、宿題や復習に取り組むようになってきている状況が見られます。特に小学校では1時間以上勉強する割合が全道・全国より高くなっています。しかし、2時間以上勉強する割合は（小：9.9%・中：9.0%）と全国平均（小：25.5%・中34.2%）に比して小・中ともに低いことから、学年に応じた学習時間を確保するため、家での過ごし方の見直しを含めた家庭の協力が求められます。

○学習（国語、算数・数学）について



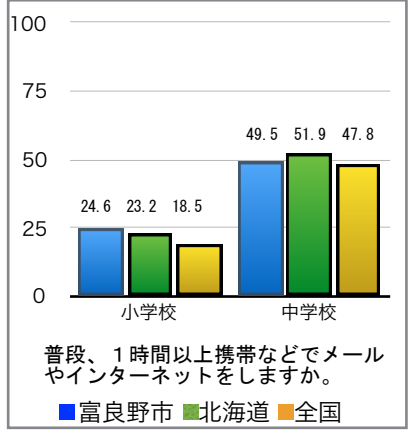
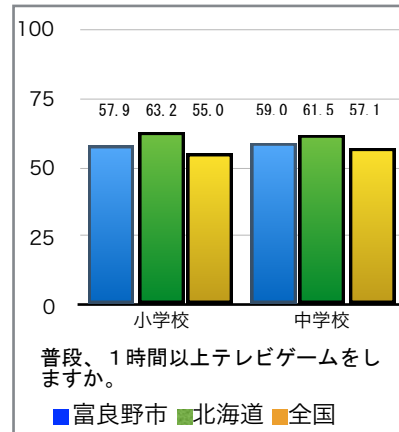
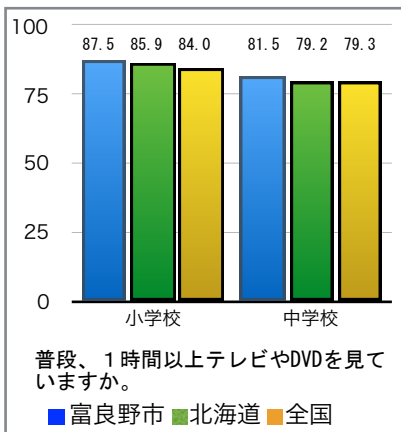
中学校で授業の理解の程度や学習方法で肯定的な回答をした生徒の割合が低いのは、学習内容の難易度が高くなることに起因していると考えられます。また、「読書が好き」と回答した児童生徒の割合が高いことから、これまでの市立図書館を中核とした読書活動の推進の取り組みが着実に進められてきていることの成果が現れてきていると言えます。

○学校での授業について



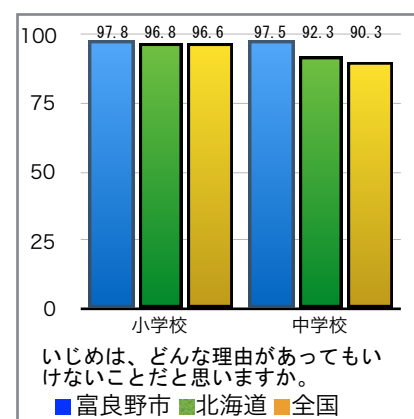
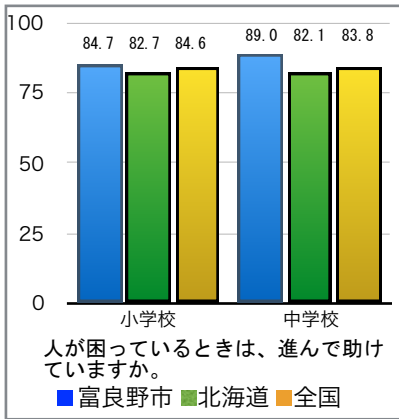
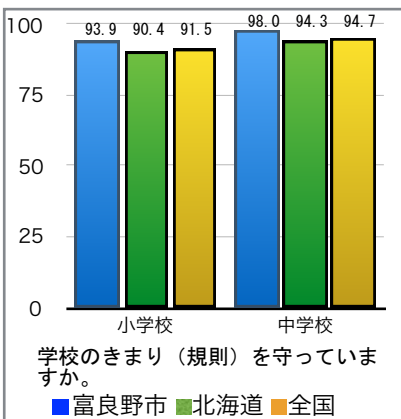
少年の主張・子ども未来づくりフォーラム・新聞コンクール・演劇教育等の取り組みを通して、大勢の前で表現する機会を設定してきた地道な取り組みや、児童生徒の学びへの意欲を高め、主体的に学ぶ授業づくりの成果がこの数値となったと受け止めています。

○家庭でテレビやゲーム・インターネットに充てる時間



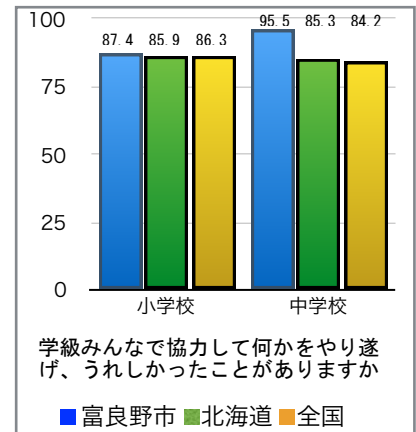
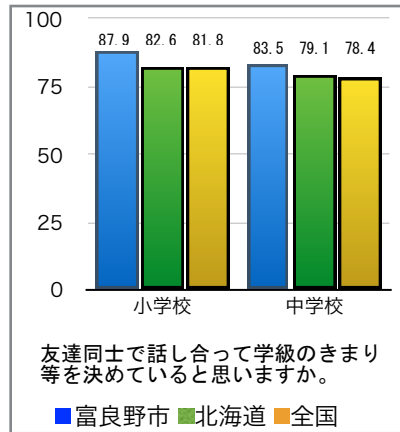
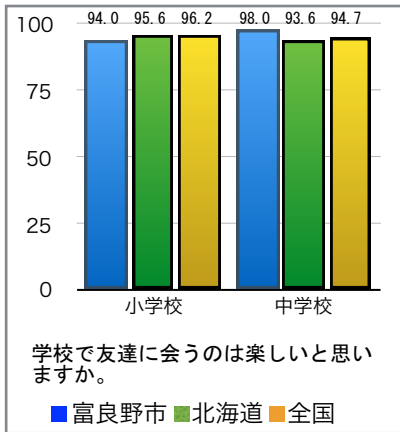
前年度より減っているものの、1時間以上TV視聴する児童生徒が80%を超えます。また、1時間以上テレビゲームをしている児童生徒が50%以上であることから、過半数の児童生徒が家庭で過ごす時間の2時間以上をテレビやゲームに充てていることになります。また、1時間以上メールやネットをする児童生徒は昨年度より減少したものの、中学生では半数近くいることから家庭におけるネット等の利用時間についての対応を家庭と連携して取り組まなければなりません。

○児童生徒の規範意識について



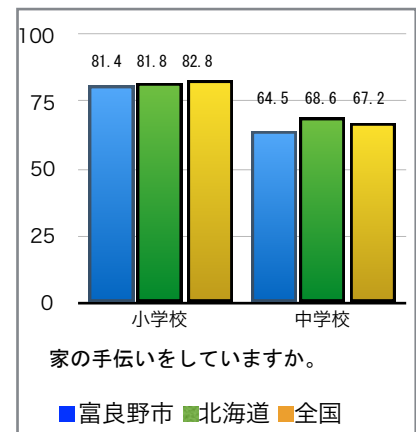
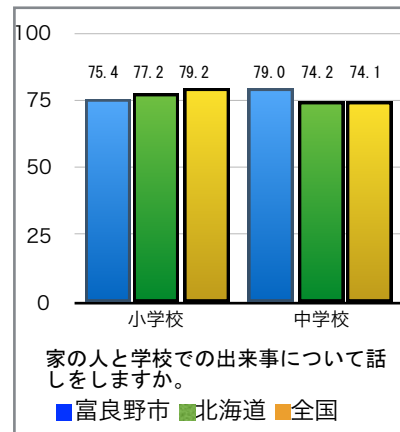
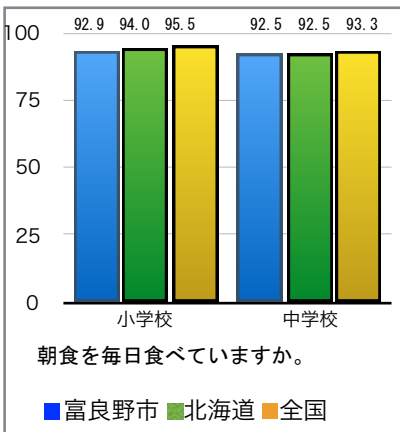
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思つた児童生徒の割合が昨年度より微増しています。「ZERO運動」・「道徳教育」・「特別活動」・「生徒指導」など、学校での日常的な取り組みの成果が現れたものと受け止めています。

○学級への所属意識



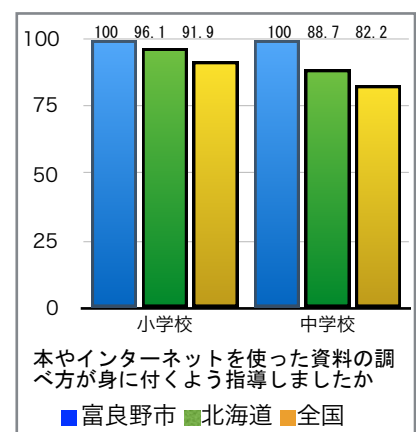
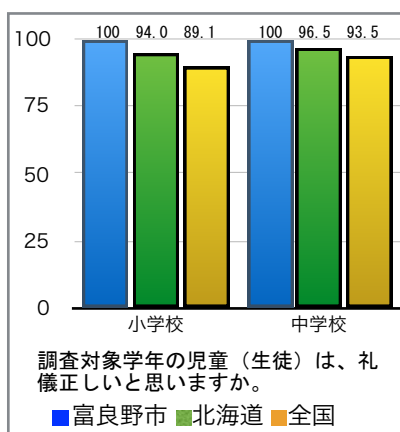
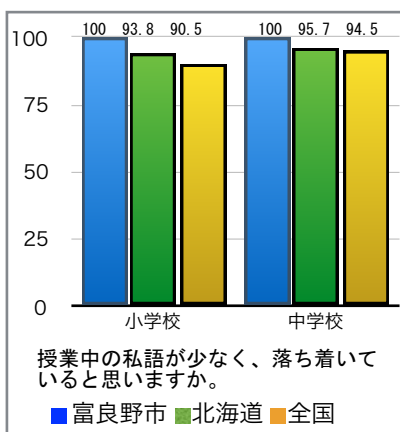
学級での友達との関わりのよさや、仲間と協力して取り組み成し遂げた達成感を味わう等の体験が、学校生活への充実感や学級への所属意識の高さにつながっていると考えられます。

○家庭での様子



児童生徒の成長にとって重要な存在である家庭での状況を見ると、朝食の習慣や家の手伝いの割合が全国平均と比べてやや低い点が気になります。

○【学校質問紙】（管理職の認識）



小・中学生ともに、学校生活において礼儀正しく過ごし授業態度も落ち着いていて真面目に学習に取り組んでいる様子が見えます。日頃の学校生活での過ごし方のよさが、本市児童生徒の成績が全国平均正答率と同等か上回ったことにつながったと言えます。また、ICT機器の導入に早期から取り組んでいた本市においては、児童生徒の授業でのインターネット等を活用した調べ学習が適切に行われていることが確認できました。

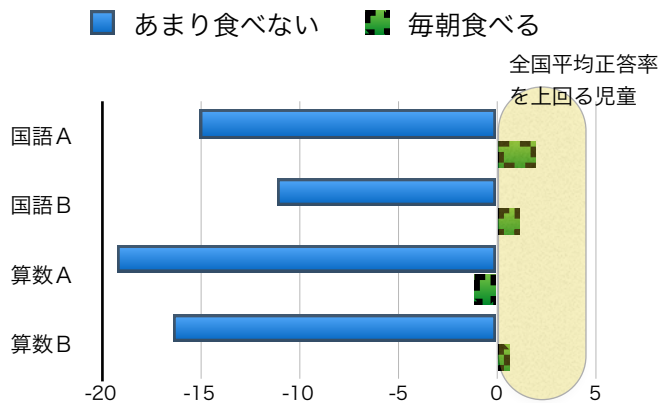
生活習慣・学校生活等と学力との相関

生活習慣が、学力にどのような影響を及ぼすのかを分析したグラフを以下に示します。

グラフが示す数値は、児童質問紙調査で各質問項目の下記に示す選択肢に「当てはまる」と回答した本市児童生徒のそれぞれの項目について、教科に関する調査の平均正答率と全国平均正答率との差を求めたものです。

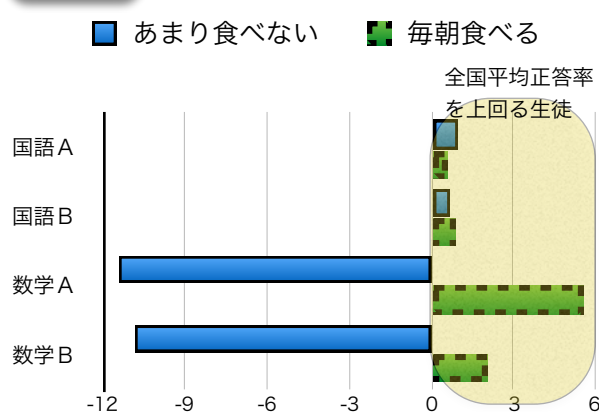
○毎日朝食を食べている

小学校



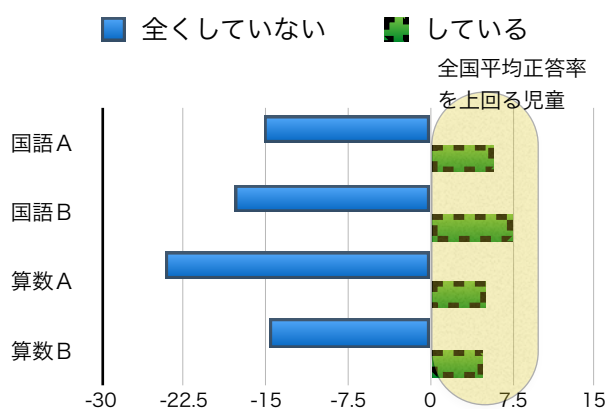
○毎日朝食を食べている

中学校



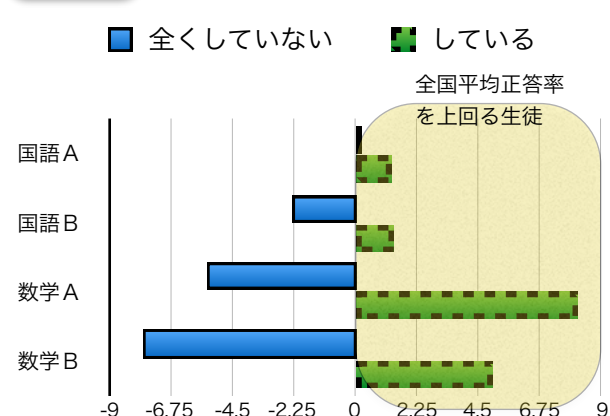
○毎日、同じくらいの時刻に眠っている

小学校



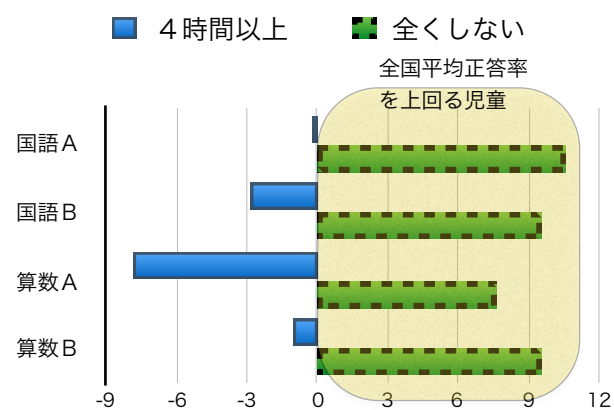
○毎日、同じくらいの時刻に眠っている

中学校



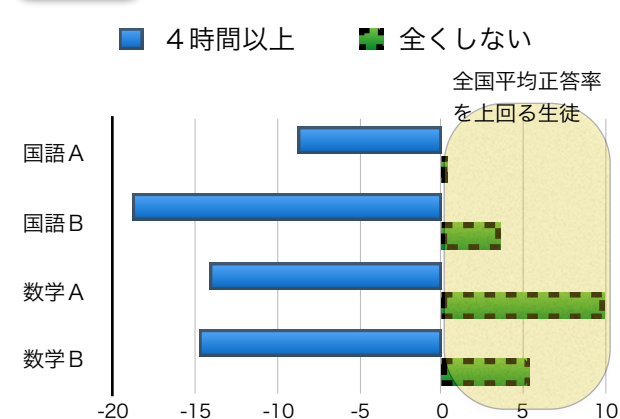
○テレビゲーム等にあてる時間

小学校



○テレビゲーム等にあてる時間

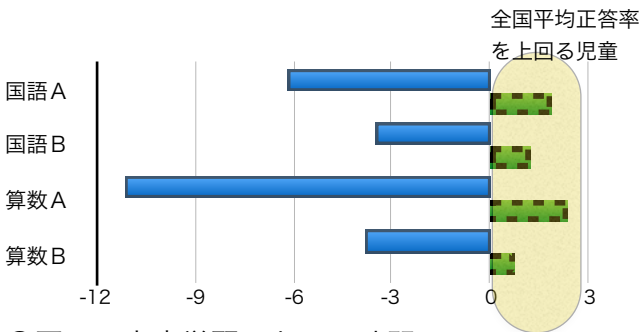
中学校



○スマートフォンの使用時間

小学校

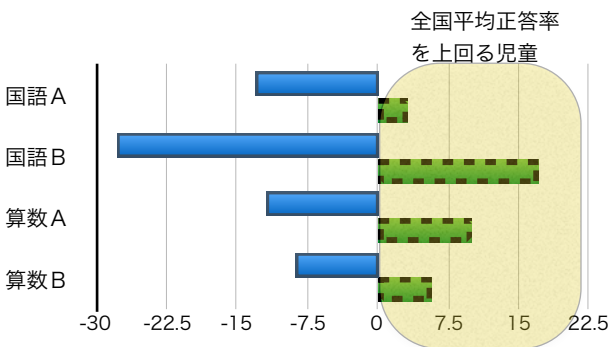
■ 2～3時間 ■ 持っていない



○平日の家庭学習にあてる時間

小学校

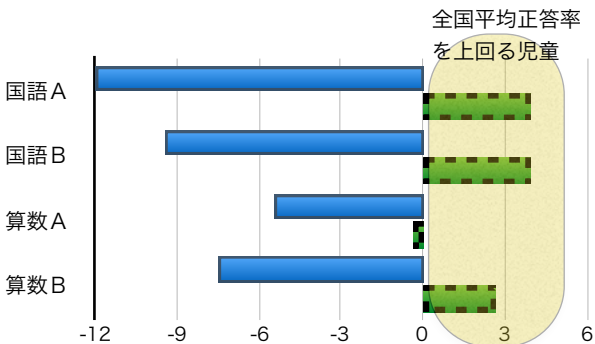
■ 全くしない ■ 2～3時間



○家の人と学校での出来事について話をする

小学校

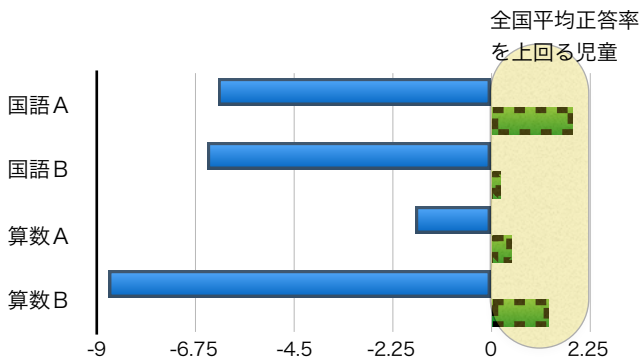
■ あまりしていない ■ している



○家の手伝いをする

小学校

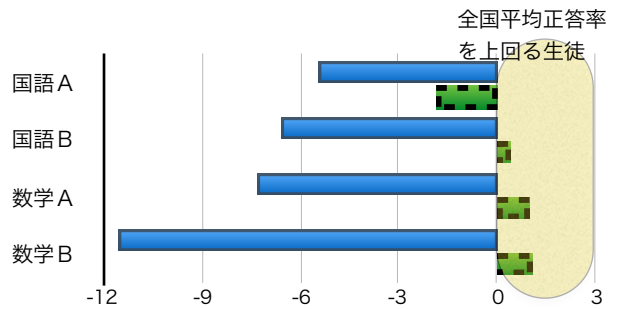
■ 全くしていない ■ よくしている



○スマートフォンの使用時間

中学校

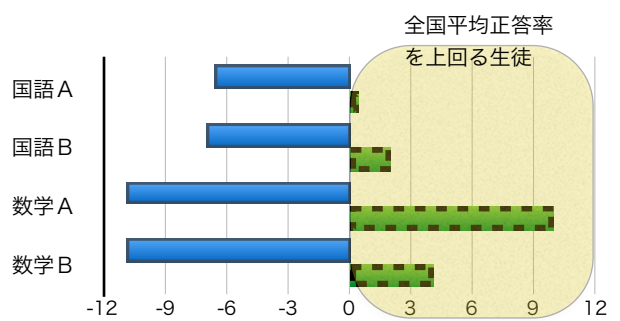
■ 4時間以上 ■ 持っていない



○平日の家庭学習にあてる時間

中学校

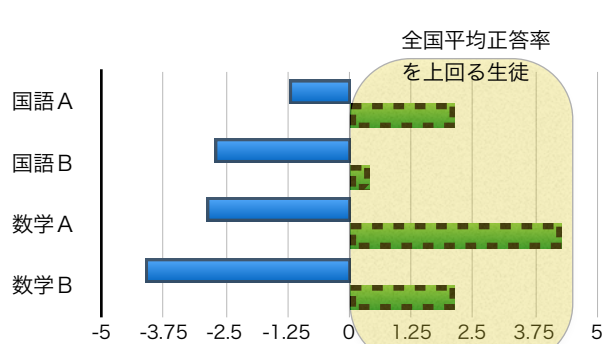
■ 全くしない ■ 2～3時間



○家の人と学校での出来事について話をする

中学校

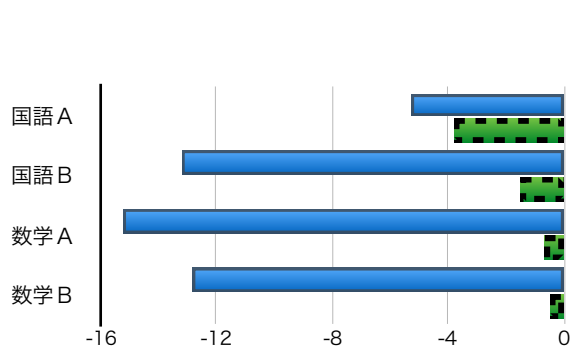
■ あまりしていない ■ している



○家の手伝いをする

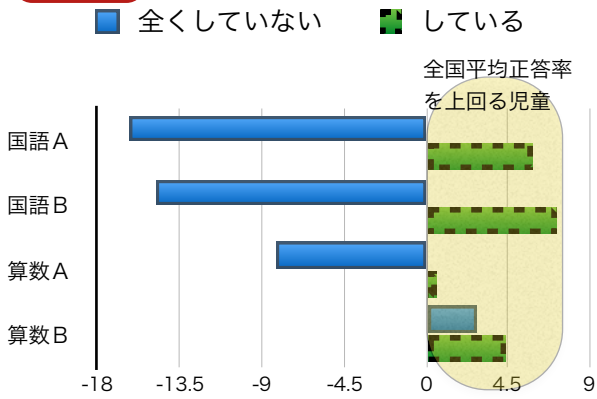
中学校

■ 全くしていない ■ よくしている



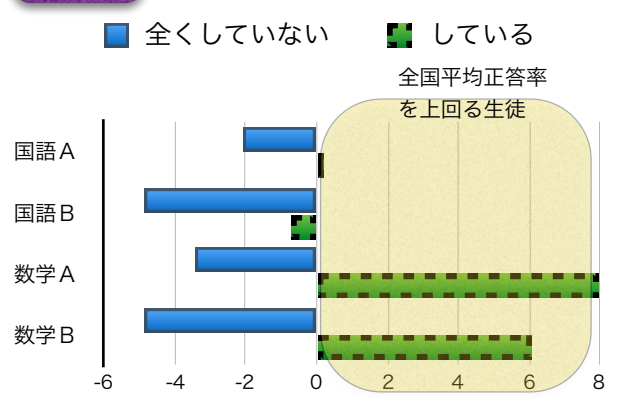
○家で、計画を立てて勉強している

小学校



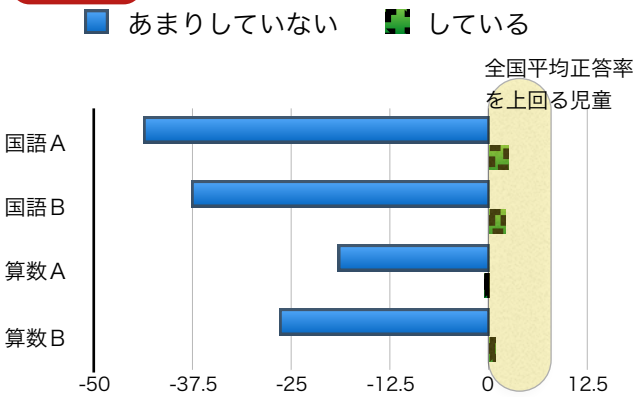
○家で、計画を立てて勉強している

中学校



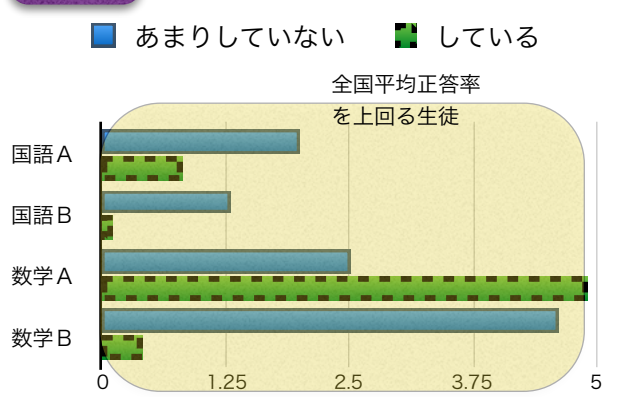
○家で、学校の宿題をしている

小学校



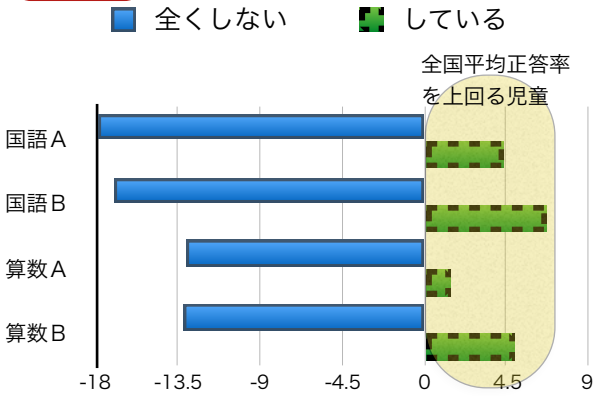
○家で、学校の宿題をしている

中学校



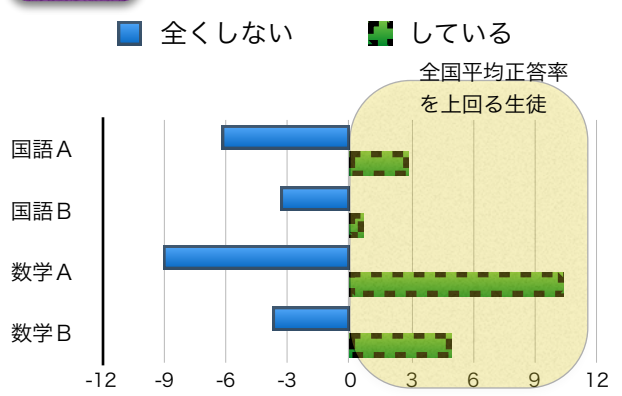
○家で、学校の授業の復習をする

小学校



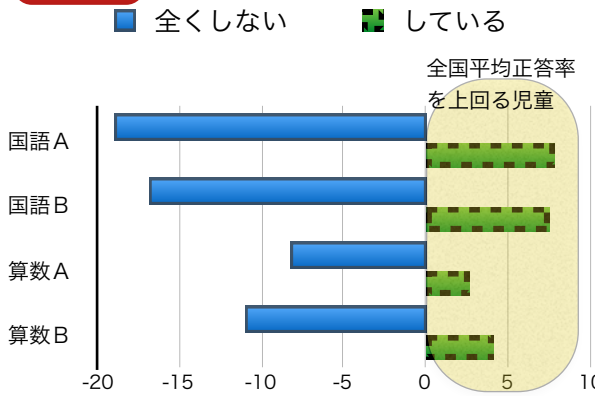
○家で、学校の授業の復習をする

中学校



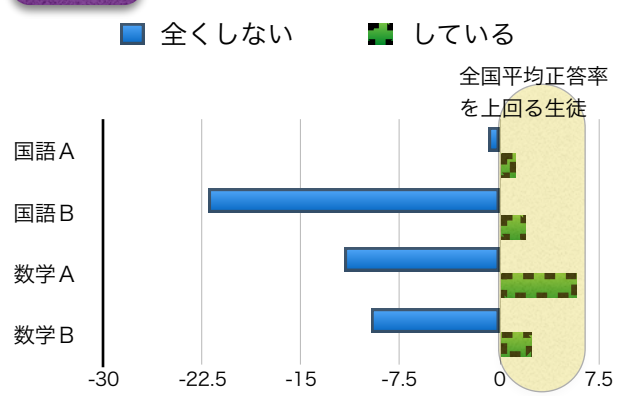
○予習、復習やテスト勉強で教科書を使う

小学校



○予習、復習やテスト勉強で教科書を使う

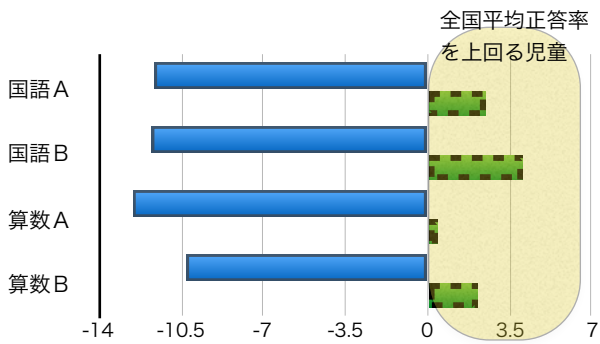
中学校



○学校に行くのは楽しい

小学校

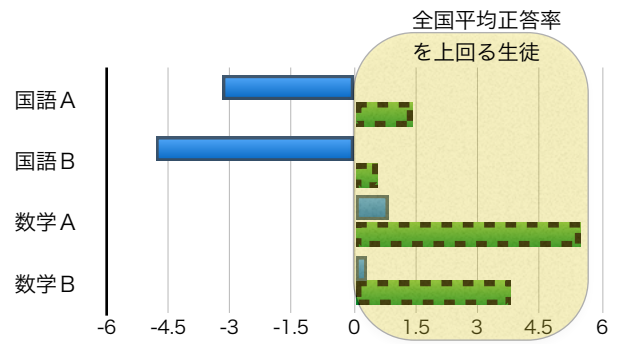
■ そう思わない ■ そう思う



○学校に行くのは楽しい

中学校

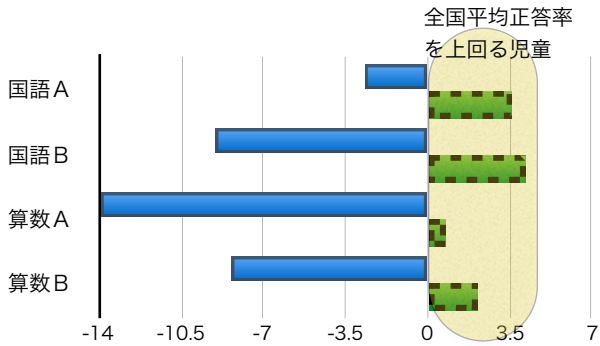
■ そう思わない ■ そう思う



○学級みんなでやり遂げた充実感

小学校

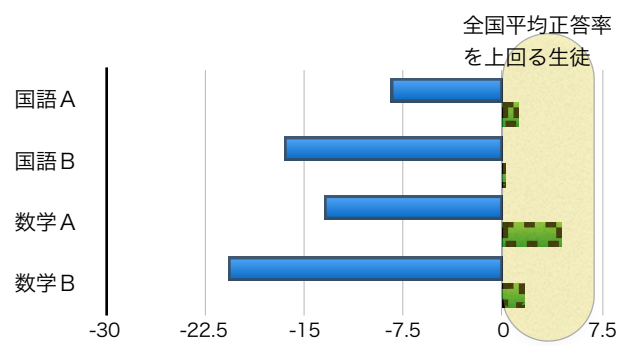
■ あまり当てはまらない ■ 当てはまる



○学級みんなでやり遂げた充実感

中学校

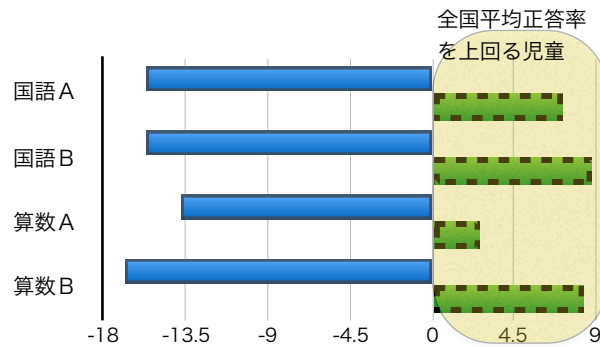
■ あまり当てはまらない ■ 当てはまる



○地域や社会で起こっている問題への関心

小学校

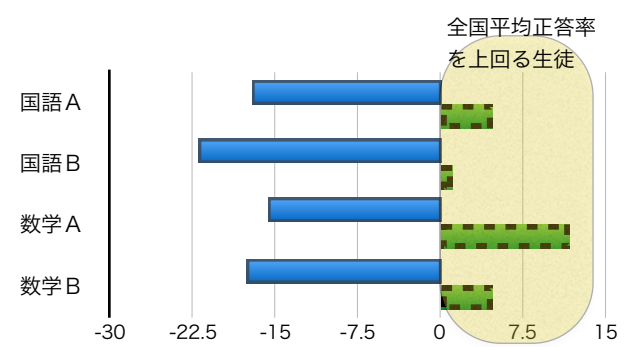
■ 当てはまらない ■ 当てはまる



○地域や社会で起こっている問題への関心

中学校

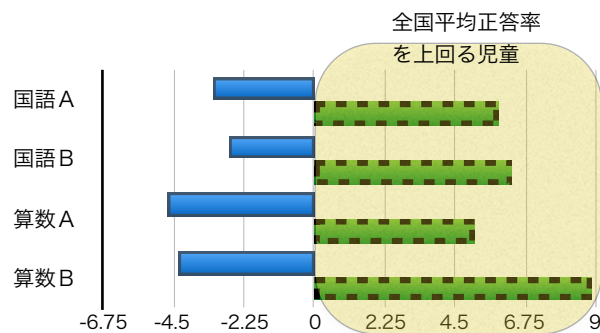
■ 当てはまらない ■ 当てはまる



○新聞を読んでいる

小学校

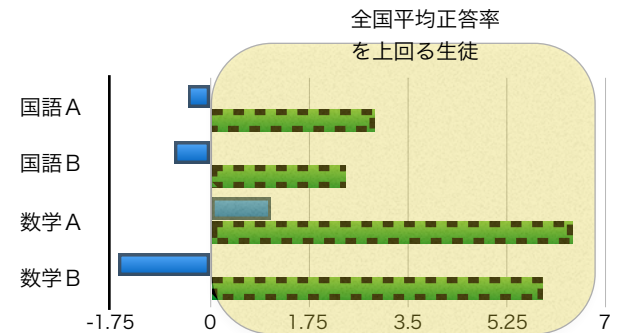
■ 全く読まない ■ ほぼ毎日



○新聞を読んでいる

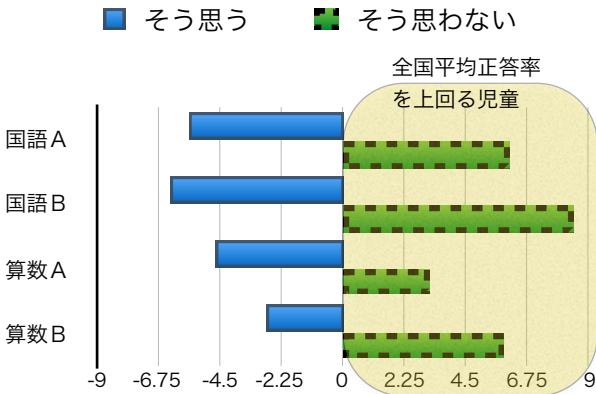
中学校

■ 全く読まない ■ ほぼ毎日



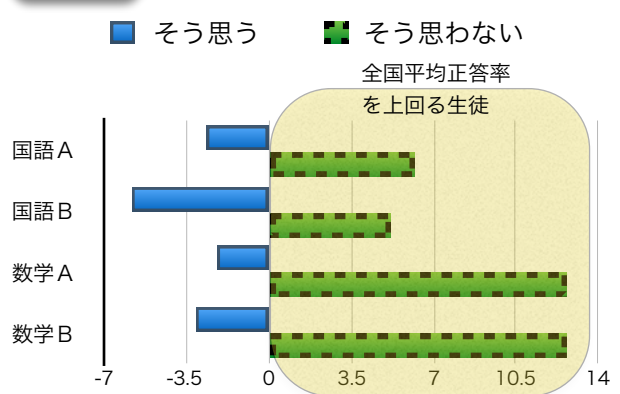
○原稿用紙2～3枚書くことは難しい

小学校



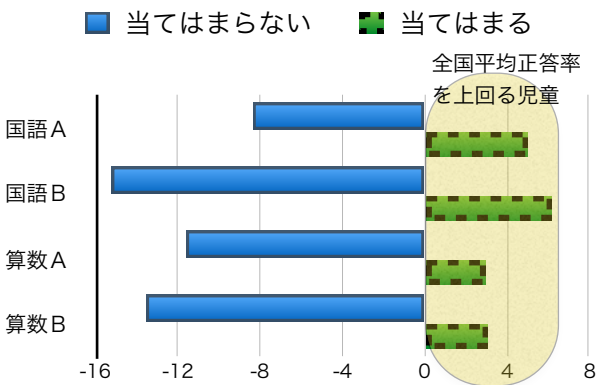
○原稿用紙2～3枚書くことは難しい

中学校



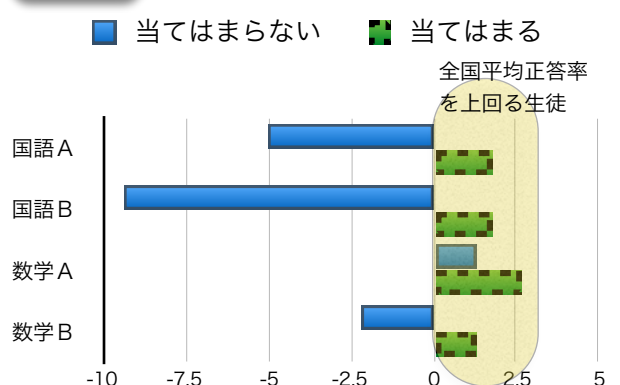
○読書が好き

小学校



読書が好き

中学校



○家庭での過ごし方と学力の相関をみると、小学生では「毎朝しっかり朝食を食べる・決まった時刻に眠る・ゲームやスマートフォンはしない・親子でよく会話したり家の手伝いをする・家庭学習に2～3時間費やし計画的に学習に取り組む・学校の宿題する・教科書を使って予習・復習やテスト勉強をする・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある・読書好きである」児童の方が、そうでない児童よりも明らかに全国平均正答率との差が少ないか、全国平均正答率を上回っています。

○学校生活においても、学校に行くのが楽しく、学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかった体験をもつ児童の方が、そうでない児童よりも明らかに全国平均正答率との差が少ないか、全国平均正答率を上回っています。

○平日テレビゲームをしない小中学生は、全科目で全国平均正答率を上回り、小学生で最大10.6ポイント、中学生で最大9.9ポイント全国平均正答率を上回っているのに対して、4時間以上をテレビゲームに充てている小学生で最大7.9ポイント、中学生で最大18.8ポイント全国平均正答率を下回っています。

○スマートフォンを持っていない小学生は全科目で全国平均正答率を上回っているのに対して、2～3時間スマートフォンを使用している小学生では、全国平均正答率を最大11.1ポイント下回っています。4時間以上スマートフォンを使用している中学生では、全国平均正答率を最大11.5ポイント下回っています。

○計画的に家庭学習をしている小学生は、全国平均正答率を最大7.1ポイント、中学生で最大8ポイント上回っています。

○ほぼ毎日新聞を読み、原稿用紙2～3枚の文章を書くことをいとわない児童生徒の方が全国平均正答率を大きく上回っています。

課題と改善のポイント

保護者・地域の皆様へ

子どもの学力については、学校が責任をもって取り組んでおり、教員の指導力向上に向け授業公開や授業研究等、全力を挙げて推進しております。この大前提を押さえた上で、学校での学ぶ力を支えると共に、もっと大きな意味で、大人になっても自ら学んでいくための『土台』を、よりしっかりとしたものにするには、小・中学校時代に学校と家庭が力を合わせて、「家庭学習の習慣をつける」とともに、子どもの学びに対する興味や関心を広げることが、極めて大切です。

家庭学習を定着させるには、「学び」の土台となる「早寝早起きをする」「挨拶をする」「家事を分担する」などの家庭での“しつけ”が重要です。



「あいさつをする・人の話を聞く・相手を思いやる・いじめをしない・時間を守る・靴を並べる・掃除をする」など 大人も子どもも「当たり前の事が当たり前ができる」よう、学校でも、家庭でも、地域でも、取り組みましょう。

進んで学ぼうとする力は、『子どもが一番安心できる家庭で、安定した生活リズムの中、毎日学習に取り組む』ことで育ちます。

大人はもう一度足もとを見直し、決してその時々気分や感情に流されず、大人としての責任を自覚して、家庭学習の充実を目指しましょう。改めるべきことは改め、当たり前のことは、当たり前のこととして推し進めるとともに、家庭を学びの環境に整えていきましょう。

- 生活リズムを整え、決まった場所と時間で学習に集中できる環境を
- 認め、励まし、対話のある温かなかわりを



家庭で

学ぶ力

- 基礎学力をつけ、学び方を教え、子どもが思考を巡らす課題や発問が提示される授業を



学校で

心身の健康

～ほめて伸ばそう 子どもの学力～

行政、学校、家庭、地域社会が連携し、
確かな学力向上に努めます。

■教育委員会

- 学校、家庭、地域が一体となって取り組める体制づくりを推進します。
- 外部講師等の協力による継続的な授業の支援を推進します。

■学校

- 現状把握により明確な目標を設定し、学校全体で一つの課題に取り組む体制づくりに努めます。
- 学習への関心・意欲の向上を図り、学習の悩みゼロに努めます。
- 基礎・基本の確実な定着を図るため、指導体制・方法の工夫改善を図ります。
- 児童生徒が発表する場面や体験活動等を充実し、活用力を育てます。
- 家庭や関係機関と連携し、個に応じた特別支援教育の充実を図ります。
- 学校間・校種間の連携と円滑な接続に努めます。
- 予習・復習の仕方や必要性を自覚させ、家庭学習の定着化を図ります。

■家庭

- 『家族の約束7カ条』を推進しましょう。
- 日常生活での積極的なコミュニケーションに努めましょう。
- 規則正しい生活習慣と宿題のみならず、計画的な家庭学習（予習・復習）に取り組みましょう。
※ 小学校6年で毎日70分以上、中学校3年で毎日100分以上取り組みましょう。
- 「早寝・早起き・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」を実践しましょう。
- 「ほめて、伸ばす」家庭教育に取り組みましょう。

■地域

- 積極的に子どもたちと触れ合いましょう。
- 学校の応援団として、学校支援ボランティアへ登録しましょう。
- 学校の授業公開へ積極的に参加しましょう。

富良野市学力向上推進プロジェクト

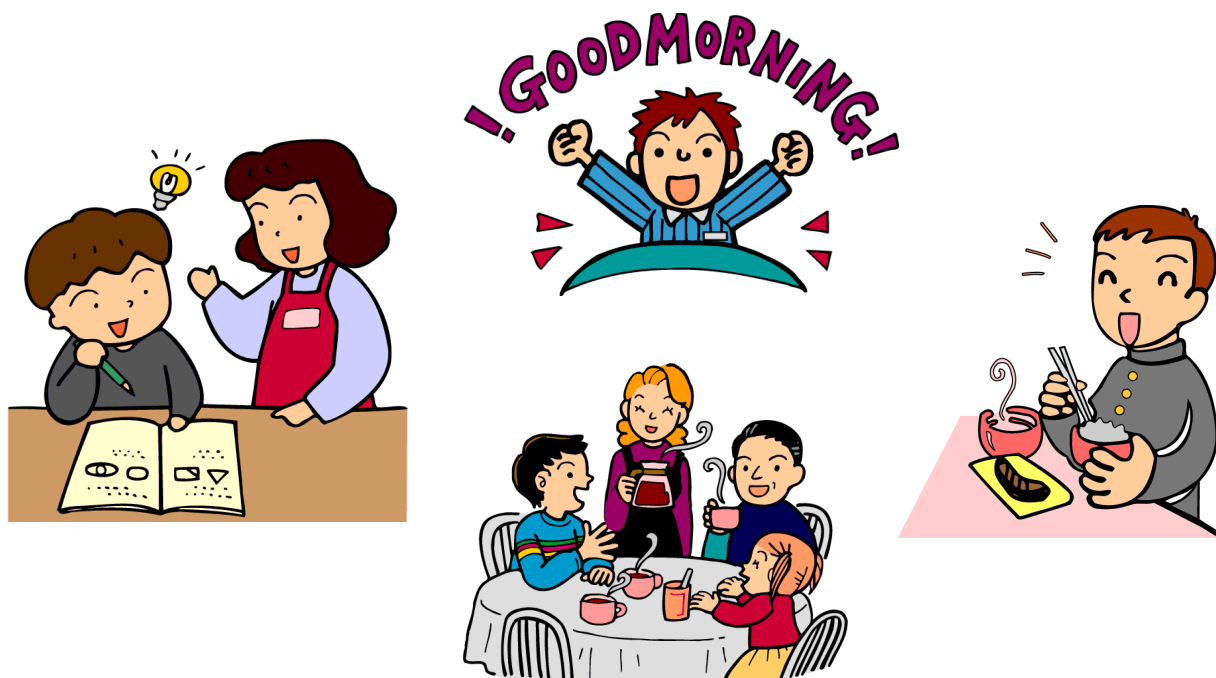
(富良野市PTA連合会・富良野市校長会・富良野市教育委員会)

家族の約束7か条

「すべては子どもたちのために」を合言葉に

1. 学習や生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん・みんなそろって晩ごはん」運動に取り組みましょう。
2. NOテレビ・NOゲーム・NOインターネットの日を設けて家族で読書に親しみ「絆」を深めましょう。
3. 学校行事やPTA活動に積極的に参加しましょう。
4. 子どもの危険信号(SOS)に早く気づき心配事は39-2333番(教育相談直通電話)へ電話しましょう。
5. 携帯電話・インターネットなどのネット被害から子どもたちを守るため「家族のルール」を基本に家族の「絆」を深めましょう。
6. 授業参観や家庭教育(子育て)セミナー、講演会に積極的に参加しましょう。
7. 子育て家庭教育ハンドブックを活用し家族の「絆」を一層深めましょう。

富良野市PTA連合会・富良野市教育委員会



各校で取り組まれている主な学力向上策

【小学校】

- ・学校改善プラン(学力向上ロードマップ)を作成。
- ・全国学力・学習状況調査や標準学力テストの分析や考察・改善策について確認。
- ・中間評価や改善プランの見直しを実施。
- ・職員評価・学校評価の実施。
- ・校内学力向上委員会の運営。
- ・学期末にチャレンジテストを実施し、成果と課題について考察。
- ・長期休業中の学習サポートでは、国語と算数を中心に理解不足の内容を中心に問題練習等で内容の理解と定着を図る。放課後の学習会の実施。
- ・学習規律の徹底。
- ・実物投影機の活用。
- ・保護者への家庭学習の手引きの配付や啓蒙。
- ・家庭学習の取組方の指導。
- ・効果的に言語活動を取り入れる。
- ・体験活動の重視，地域人材の活用する。
- ・導入段階で課題を明確化し，授業の最後には必ずまとめの場面をつくり学習内容の定着を図る。また，その日の学習内容を家庭学習課題として出し，更なる学力の定着を目指す。
- ・デジタル教科書を有効に活用し，子どもの興味関心を長続きさせ，授業に取り組めるよう工夫している。
- ・大型テレビ等のICT機器を場面に応じて積極的に使用することで，教育効果の高い授業づくりを目指している。

【中学校】

- ・長期休業中の学習サポートでは、国数英を中心に基礎基本の徹底を行う。特に低学力層の底上げに重点を置き、個別指導を中心に取り組む。
- ・「わかる授業」への授業改善を主題とした校内研修の推進。
- ・各学年での家庭学習の定着に向けた取組（家庭学習ノート等）。
- ・毎週の朝の小テスト実施による学力分析と学力向上対策の策定。
- ・授業時の小テストと連動させた放課後補習授業。
- ・学力向上プロジェクトチームを中心に、振り返りの場면을意図的に取り入れる授業提案
- ・学習のめあての黒板及び学習プリントへの明示と学習事項の確認を日常から行う取り組みを進めている。
- ・教室のテレビをPCと接続し，各図表の提示やDVD再生などのモニター機能の活用。
- ・「家庭学習のしおり」の指導配布と家庭での協力依頼。
- ・各学級通信で，学級での家庭学習状況についての情報発信。
- ・全国学力・学習状況調査やアンケートの結果をもとに望ましい生活習慣を身につけさせる取組を家庭と連動して実施。